

トヨタ財団

2006(平成18)年度

アジア隣人ネットワークプログラム助成

## 企画経過報告書

(初年度：2006年11月～2007年10月)

2007年11月

=====

助成番号：D06-N-104

プロジェクト名：

「アジア環境協力」のための情報共有の促進、および、それにもとづく多面的・重層的な人的ネットワークづくりの推進

プロジェクトコーディネーター：大島堅一（立命館大学国際関係学部准教授）

連絡責任者氏名：寺西俊一（一橋大学大学院経済学研究科教授）

---

### 1. 本企画の目的と概要

本企画の目的は、助成申請の際に提出した企画書の概要で明記したとおり、21世紀の今日、世界共通の最重要アジェンダとなっている地球環境保全を、今後、具体的な形で前進させていく上で、ますます不可欠な課題となってきた「アジア環境協力」のための情報共有の促進、および、それにもとづく多面的・重層的な人的ネットワークづくりを着実に推進していくことにある。この目的のために、プロジェクトコーディネーターを中心とした関係グループは、すでに1990年代初頭から、日本を含むアジアの各国・地域における環境保全の相互協力的な取り組みとそのための情報共有を促進すべく、NGO版『アジア環境白書』シリーズ（日本語版および英語版、一部韓国語版と中国語版）の編集・刊行と活用・普及の活動などを積み上げ、また、そのなかで意識的に構築してきた人的ネットワーク（アジアの16カ国・地域にまたがる）を、さらに多面的かつ重層的に発展させていくことを目指してきた。

本企画では、上記の経緯と実績を踏まえて、まず第一に、1990年代初頭から継続的に推

進してきた『アジア環境白書』シリーズの編集・刊行という共同事業にボランティアな意思と熱意で協力し、この事業を具体的に担う学際的・国際的な広がりをもった各分野の研究者（大学院生など若手研究者を含む）、実務的専門家、NGO 関係者、行政関係者、企業関係者、ジャーナリスト、関係する市民・住民など、多彩な陣容での協働作業の基盤となる人的ネットワークをさらに一段と充実させていくこと、第二に、そうした人的ネットワークをベースに、今後、市民イニシアティブにもとづく「アジア環境協力」のための独自の国際ネットワーク組織を新たに構築していくことを目的とした取り組みを鋭意進めてきた。こうしたわれわれのネットワークづくりは、アジアの地域において、国境を超え、既存の制度・組織、専門領域なども超えた横断的な新しい人的信頼関係と人的協力関係の構築を目指している点で、きわめてユニークな取り組みである。また、その際、本企画においては、とくにアジア各国・地域における年代的に若い人材の新たな発掘と参加・関与を重要視し、われわれのネットワークづくりの世代的な継承・発展が可能となるように特別な留意を行ってきた。

## 2．初年度（2006年11月～2007年10月）の活動経過

以下、本企画の目的に沿った初年度（2006年11月～2007年10月）におけるわれわれの活動経過について簡単にとりまとめておく。

2006年9月8日（金）～12日（火）（於・熊本、水俣）：

本企画の助成内定を受けて、まず最初に、熊本および水俣で開催された「環境被害に関する国際フォーラム」（参加者：14カ国、約300名）にプロジェクトコーディネーターをはじめ、本企画の主な関係者が参加し、同国際フォーラムに出席したアジア各国・地域の関係者との交流・意見交換・打ち合わせなどの機会をもち、本企画の推進に向けた参加・協力の要請を行った。

2006年10月7日（土）（於・東京）：

本企画の助成内定を受けて、主な関係者による事前打ち合わせ会合をもち、本格的な活動開始に向けた基本方針の検討を行った。

2006年11月1日（水）（於・東京）：

本企画の助成開始。本企画への助成授与式に関係者（2名）が出席した。

2006年11月4日（土）～7日（火）（於・タイ、バンコク、チェンマイ）：

国連環境計画（UNEP）主催の「7th Annual Collaborations Assessment Network (CAN) Meeting」（2006.11.06、Bangkok）に本企画の関係者（2名）を派遣し、UNEPのネット

ワークとの連携に努めた。また、このタイ訪問の機会を利用して、タイのチュラロンコーン大学、および、チェンマイ大学の関係研究者を表敬訪問し、本企画への参加・協力の要請を合わせて行った。

2006年11月29日(水)～12月1日(金)(於・韓国、ソウル)：

「第2回東アジア環境資源経済学術大会」(於・ソウル)に、本企画の関係者(4名)を派遣し、そこに参加した日本、中国、台湾、韓国からの環境分野の研究者とのネットワークを強め、また、本企画への参加・協力の要請を合わせて行った。

2006年12月25日(月)(於・東京)：

本企画の主な関係者の打ち合わせ会合をもち、とくに新年以降の諸活動に関する方針等の検討を行った。

2007年1月27日(土)(於・東京)：

本企画の主な関係者の打ち合わせ会合をもち、新年以降の諸活動に関する方針等の検討を行った。

2007年3月19日(月)～20日(火)(於・東京)：

本企画の目的の一環である『アジア環境白書』シリーズ(第5弾)の具体的な編集・刊行に向けた関係者の合宿検討会を行い、合わせて、今後のネットワークづくりの推進に役立つ独自のWebサイトの立ち上げ等についての検討なども行った。

2007年6月16日(土)～17日(日)(於・台湾、台北)：

「台日公民フォーラム」(於・台北)に本企画の関係者(1名)を派遣し、同フォーラムに参加した台湾関係者のネットワークとの連携を強め、また、本企画への参加・協力の要請を合わせて行った。

2007年7月21日(土)(於・東京、新宿)：

トヨタ財団主催「アジア隣人ネットワークプログラム第1回ワークショップ」に本企画の関係者(1名)が参加した。

2007年8月24日(金)～26日(日)(於・東京)：

「環境被害救済と予防に関する日中韓国際ワークショップ」(於・東京)の開催に積極的な企画協力を行うとともに、同ワークショップに参加した日本、中国、韓国の関係者との交流・連携を強め、また、本企画への参加・協力の要請を合わせて行った。

2007年9月9日(日)～11日(火)(於・中国、青島)：

中国の国立海洋大学(青島)に本企画の関係者(1名)を派遣し、関係研究者を表敬訪問し、本企画への参加・協力の要請を行った。

2007年10月26日(金)(於・東京)：

本企画の関係者が2004年からの編纂プロセスを通じて協力してきた国連環境計画(UNEP)による『GEO-4(地球環境概況第4次報告書)』の日本での発表記者会見およびシンポジウムに、本企画の関係者(2名)が参加し、UNEPのネットワークとの連携に努めた。

2007年11月22日(木)～26日(月)(予)(於・オーストラリア、シドニー)：

「第8回アジア・太平洋NGO環境会議」(於・シドニー)に企画協力するとともに、本企画の関係者数名を派遣し、同会議のネットワークとの連携をさらに強化していく予定となっている。

### 3. 本企画の当初目的の達成状況と今後の課題

上述した初年度(2006年11月～2007年10月)における活動経過に示されているとおり、われわれは、この間に、本企画の当初目的に沿った取り組みを積み上げ、「アジア環境協力」のための情報共有の促進、および、それにもとづく多面的・重層的な人的ネットワークづくりを着実に進めてきた。とくに助成を受けた初年度の取り組みを通じて、従来までの人的ネットワークの枠を越えて、より幅広い横断的なつながりの発展可能性が生み出されつつあるといえる。ただし、当初に想定していた小規模な形での「国際ワークショップ」等の開催については、関係者の日程調整の難航等、諸般の事情のため、必ずしも予定どおりの企画準備ができないままに終わっているという問題もある。

本企画における第2年度の取り組みでは、初年度での不十分点や限界点を補いつつ、われわれが最終目標としている「アジア環境協力」のための独自の国際ネットワーク組織の新たな構築に向けて、何らかの具体的な手がかりと展望を切り開いていけるよう、引き続き、着実な努力を積み上げていきたいと考えている。

\*参考 Web サイトの URL: <http://www.einap.org/>